

エサンキマダラハナバチ

Nomada esana Tsuneki
ハチ目・ミツバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越地方の山地帯を中心に記録があり、今回も奥越地方で調査が行われたが、確認できなかった。本県を含め、全国的に記録が少ない種であり、現状では生息環境が悪化しているかの判断が難しい。前回のランクを維持。

種の特徴

体長8～10mm。体の大部分が黒色で黄色紋があり、ナミギングチバチ類に似ている。前伸腹節の心形域は前面が微細彫刻され指紋状の条刻がある等、春発生する他の多くのキマダラハナバチとは違った形態の特徴を持つ。成虫は夏～秋に出現する。

分布

北海道、本州（本県と埼玉のみ）に分布。稀。県内では大野市赤兎山、嵐、下打波（谷山）、中島（大雲谷）、巢原（平家平）で記録がある。今回は本種を確認できていない。

生息を脅かす要因

山仕事に従事する人がいなくなり、適当な下草狩りや赤土の露出した山道が維持できず、山は荒れている。一方、林道や登山道の大幅な整備拡張や舗装等も本種の生存を危うくする。

参考文献 福井県自然保護課（2002）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ナガマルハナバチ

Bombus consobrinus Dahlbom
ハチ目・ミツバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともと局地的だが、確認地点数は減少している。しかし、主要な生息地である大野市三ノ峰一帯は白山国立公園特別保護地区に指定されており、大幅な生息環境の悪化はないと考えられることを考慮し、ランクダウン。

種の特徴

体長は女王で16.8～21.5mm、働き蜂で12.5～18.0mm、オスで14.1～16.9mm。マーラースペースと下唇が各カーストとも顕著に長い。山地～亜高山帯に生息し、木の根や岩の隙間、ネズミの穴等に営巣。1匹の女王蜂と多数の働き蜂による社会生活を営む。

分布

本州に分布し、本県が分布西限。県内では大野市小池、経ヶ岳で記録がある。今回の調査では、大野市剣ヶ岩より高標高の三ノ峰一帯で比較的多くの個体が確認された。

生息を脅かす要因

高山地での樹木の伐採や登山道の整備等による生息環境の改変が危惧される。また、分布西限である本県では、温暖化の影響で、個体群が孤立化し、絶滅する恐れもある。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、木野田ら（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ツマグロキチョウ

Eurema laeta betheseba (Janson)
チョウ目・シロチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

今回の調査では確認できなかった。1992年以降県内の記録はなく、県内での生息は危ういが、県外では外来雑草に依存して個体数が増えた事例もある。

種の特徴

黄色地に前翅端外縁に黒色斑を有し、前翅頂が角張る。年3～4化。成虫で越冬。平地～山地の丈の低い草地や河川の攪乱頻度が高くカワラケツメいの生える河川敷に生息する。カワラケツメいを食草とするが、外来種のアレチケツメいを食べるとの報告もある。

分布

本州～九州に分布。県内では大野市上庄、平家平、朝日前坂、若狭町藤井、小浜市で記録がある。自然史博物館には1978年に高浜町で採集された標本が収蔵されている。

生息を脅かす要因

圃場整備等の開発、草地の管理放棄、農薬散布、河川改修等が本種の生存にとって脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○											○	